

おしえて！ 東通村のおしごと♪

東通村役場には沢山の課があり、沢山の人が働いています。しかし、普段過ごしていて「**具体的にどんな仕事をしているんだろう……？**」と疑問に思ったことはありませんか？

このコーナーでは、**東通村役場に勤めている職員とその業務**について紹介していきます。

教育委員会教育総務課

主事 山本 卓人さん 入庁1年目

「山本さんは現在どんなお仕事をされているのですか？」

小中学校の施設、設備の管理やスポーツに関する業務を担当しています。学校施設が安全で快適に利用できるよう、点検や修繕対応を行うとともに、地域スポーツの振興を通じて、子どもたちや地域の皆さんが元気に活動できる環境づくりに取り組んでいます。

「現在のお仕事をするうえで意識していることを教えてください！」

学校施設やスポーツ活動は多くの子どもたちや地域の方が日常的に利用するものなので、安全を最優先に考え、早めの点検や対応を心掛けるよう常に意識しています。学校や関係者の声に丁寧に耳を傾け、円滑な連携を大切にしながら、安心して利用できる環境づくりを意識しています。

「今後の目標を教えてください！」

毎日学ぶことばかりですが、学校施設やスポーツ活動が安全に行われるよう、基本を大切にしながら丁寧な対応を心掛けています。学校や地域の皆さんの声を大切に、少しでもお役に立てるよう精進いたします。



特産品PRにも参加しました！



能舞にも取り組んでいます

今日の『ひがしどおり小話』

No. 35 尻屋に棲む鬼神伝説

2月は節分の季節です。節分は「鬼は外～」の掛け声で豆まきを行います。また、恵方を向いて巻き寿司を食べる関西の風習「恵方巻」が、近年は全国に広まり、この時期になると、スーパーでも恵方巻を見かけます。「恵方」とは、その年に福をもたらす神様がいてとされる、縁起の良い方角のことです。

節分にちなんで、今日の小話では「尻屋に棲む鬼神伝説」をご紹介します。



一下北各地の伝承 ※日誌等の史料により伝えられてきた伝承を現代語訳でご紹介します

- かつて、鬼門にあたる尻屋には鬼が棲み、牛馬を掴まえ人々を苦しめていた。そこで源頼義公が鬼退治した。
- 昔、頼義公が、尻屋岬の鬼神を退治した。赤岩岬（現在の風間浦村）から、頼義公が尻屋岬に向けて矢を射た。
- 頼義公が、草を切って矢を作り、岩を砕いて鍵の代わりとし、尻屋の鬼神を退治した。
- 尻屋の近くにある「鬼屈」にも、洞窟の中に鬼神が住み、人々を苦しめていたが、頼義公がこれを退治した。

頼義公は、平安時代に東北地方を治めたとされる名将です。頼義公と尻屋の鬼神にまつわる伝承が各地に残っていますが、実際に頼義公が尻屋を訪れたことを示す記録史料は見つかっていません。

「鬼門」とは、今は「避けたいポイント」等の意ですが、本来は「病気や災いが入りやすいとされる方角」を指していました。前述の「恵方」とも関連し、日本には災いを避け、良い流れを選ぶために方角の吉凶を重んじる「陰陽道思想」があります。この考えで、人が住む都市の中心に対して、北東の方角が鬼門とされていました。

現在では、尻屋は村有数の景勝地として、多くの来訪者で賑わいます。

伝承に思いをはせ、2月の尻屋を散策してみたいはいかがですか♪